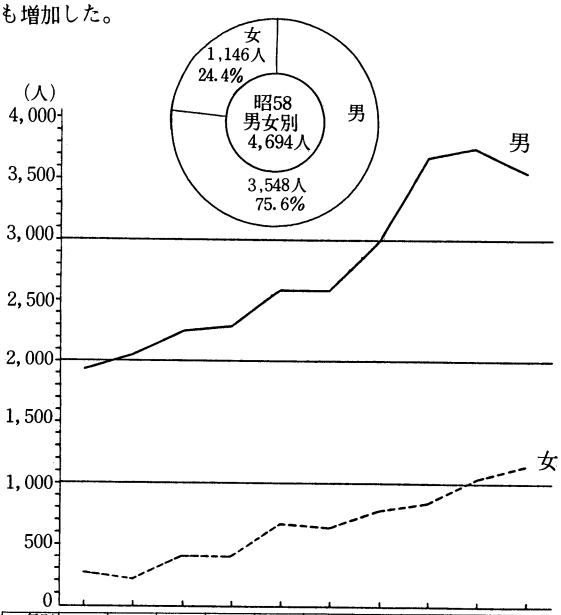
図５　刑法犯少年男女別状況

男子が3,548人で全体の75.6パーセントを占めている。
女子は、人員で131人（12.9%）増加し、全体に占める割合も増加した。



年別	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58
男	1,934	2,058	2,256	2,299	2,629	2,596	2,998	3,686	3,744	3,548
女	284	239	402	402	685	634	779	845	1,015	1,146

（注）犯罪・触法を含めた数

図４　行為別状況

「喫煙」が全体の42.1パーセントを占め、次いで「深夜はいかい」、「不良交友」の順となっている。
女子は「深夜はいかい」、「不良交友」が多い。

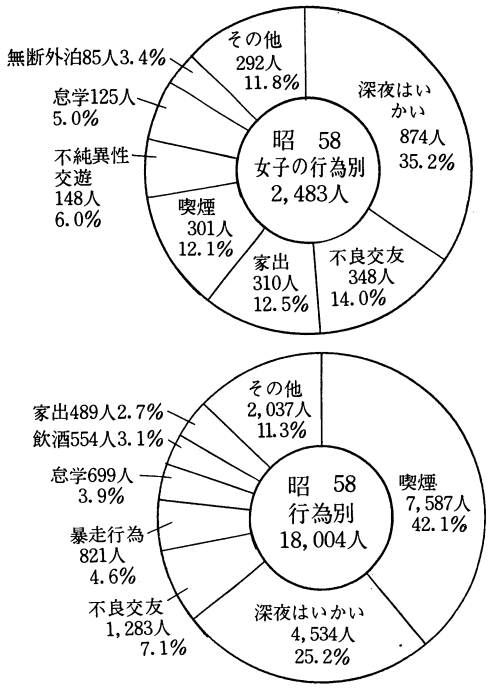


表３　青少年の問題行動の原因と背景

（教育モニター　905名（昭和57年３月）

項目 ＼ 順位	第一位 名(%)	第二位 名(%)	総合 名(%)
1．家庭における親の養育態度が、放任や甘やかしに流れ、十分なしつけをしてないことによる。	533 (58.9)	136 (15.0)	669 (37.0)
2．地域社会で住民の連帯感が薄くなったことや、他人の子どもに関心を払おうとしない傾向が強くなったことによる。	42 (4.6)	61 (6.7)	103 (5.7)
3．暴力や性に関する俗悪な映像物や出版物の氾濫など社会環境による。	43 (4.8)	86 (9.5)	129 (7.1)
4．物質主義、社会規範の軽視、学歴偏重などの社会的風潮による。	99 (10.9)	142 (15.7)	241 (13.3)
5．学校における生徒指導の組織や計画が十分でなかったり、教師の指導が適切さを欠いたりしたことによる。	57 (6.3)	202 (22 3)	259 (14.3)
6．学習、交友関係、進路の選択などの面で生徒が学校生活に適応していないことによる。	26 (2.9)	71 (7.8)	97 (5.4)
7．本人自身が忍耐力や自制心に欠け、自己中心的な考え方をしていることによる。	95 (10.5)	188 (20.8)	283 (15.6)
8．そ　の　他	7 (0.7)	16 (1.8)	23 (1.3)
複数回答・無回答	3 (0.3)	3 (0.3)	6 (0.3)
計	905 (100)	905 (00)	1,810 (100)

（注）「総合」は、第一位選択と第二位選択を単純に合計したものである。

三　非行等問題行動の背景

非行の要因や背景は、それぞれのケースにより、一人一人原因が違っている。したがって非行問題を考えるときには、表面の事象のみにとらわれることなく、要因を総合的にとらえて、適切な指導が必要である。

（教育福島昭和五十八年六月号参照。）
文部省が実施した教育モニターによるアンケート調査（表３）によれば、非行の原因や背景には、①生徒自身の要因、②家庭の環境、③地域社会の状況、④学校における指導の問題点などが複雑にからみあって発生するものと指摘されている。